

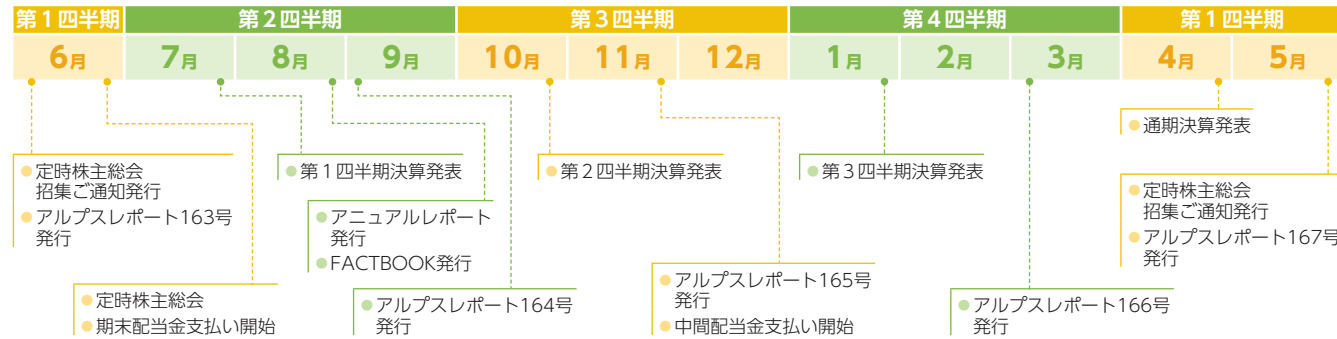
## 2016年度 IRカレンダー (予定)

詳しいIR情報は  
当社ホームページをご覧ください。

<http://www.alps.com/j/ir/>

アルプス電気 IR

検索

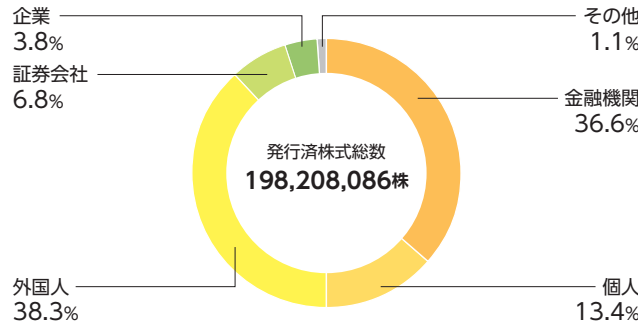


### ■ 株式の情報 (2016年3月31日現在)

#### 大株主の状況

順位	株主名	所有株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	21,001,200	10.60%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	17,126,000	8.64%
3	資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,981,400	2.01%
4	CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	3,910,441	1.97%
5	三井生命保険株式会社	3,591,000	1.81%

#### 所有者別分布状況



(注) その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失効株式です。

(注) 個人は、個人・持株会名義の株式です。

美しい電子部品を究めます



### アルプス電気株式会社

〒145-8501 東京都大田区雪谷大塚町1番7号  
TEL. (03) 3726-1211 (大代表)  
(03) 5499-8026 (IR部門直通)

### ■ 株主メモ (2016年3月31日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
基準日	定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日 その他あらかじめ公告して定めた日
定時株主総会 公告掲載	毎年6月下旬 電子公告により、当社ホームページ ( <a href="http://www.alps.com/j/ir/index.html">http://www.alps.com/j/ir/index.html</a> ) に掲載します。 なお、やむを得ない事由により、電子公告ができない 場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京(第一部)証券コード6770
1 単元の株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ホームページ <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

三菱UFJ信託銀行証券代行部

検索

#### 【ご注意】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

#### 株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ ☎ 0120-232-711

(受付時間: 土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00)

住所変更等諸届用紙ご請求 ☎ 0120-244-479 (24時間受付)

# ALPS REPORT

## 第83期 報告書

アルプス電気株式会社 2016年6月2日発行

### 特集 アルプス電気の広告紹介

### ALPS SHOW 2016 ご招待のご案内



人と地球に優しい、快適な未来を。

# No.163

証券コード: 6770



# 「持続的成長が可能な会社」 を目指します。

電子部品事業では、第7次中期経営計画の目標を達成し、売上・利益ともに過去最高を記録しました。これまでの成果を足掛かりに、車載、モバイルの両市場、及びEHIIの三つを重点市場と位置付け更なる成長を目指します。



アルプス電気株式会社  
代表取締役社長

栗山 年弘

皆様へ

このたびの熊本県を中心とする地震により被災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興を心よりお祈りいたします。

さて、2015年度のエレクトロニクス業界は、米国景気の好調などから自動車市場は堅調に推移し、スマートフォン市場では中国メーカーが伸長する一方、年後半より一部主要メーカーの鈍化がありました。

この中で当社では、自動車市場向けで各種入力モジュール等が順調に推移。スマートフォン向けでは、コンポーネント製品が上期に大きく伸長しました。下期は市場の大きな変化から一部製品で軟調となりましたが、通期では期初の計画を上回る結果となりました。新市場は、話題のIoT市場で、新製品の投入やネットワーク関連企業との協業を進めました。以上の結果、2015年度の業績は、売上、利益ともに過去最高を記録しました。

本年度から3年間の第8次中期経営計画では、「持続的成長が可能な会社」を目指し、車載、モバイルの両市

場、及びEHIIの三つを重点市場と位置付けました。今後、車載市場向け事業での一層の収益改善と、モバイル市場向けでの継続した新製品の創出と増客を図ることで、両市場での「収益の両輪化」を実現し、更なる拡大を目指します。

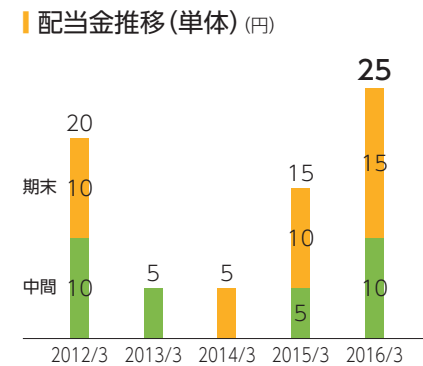
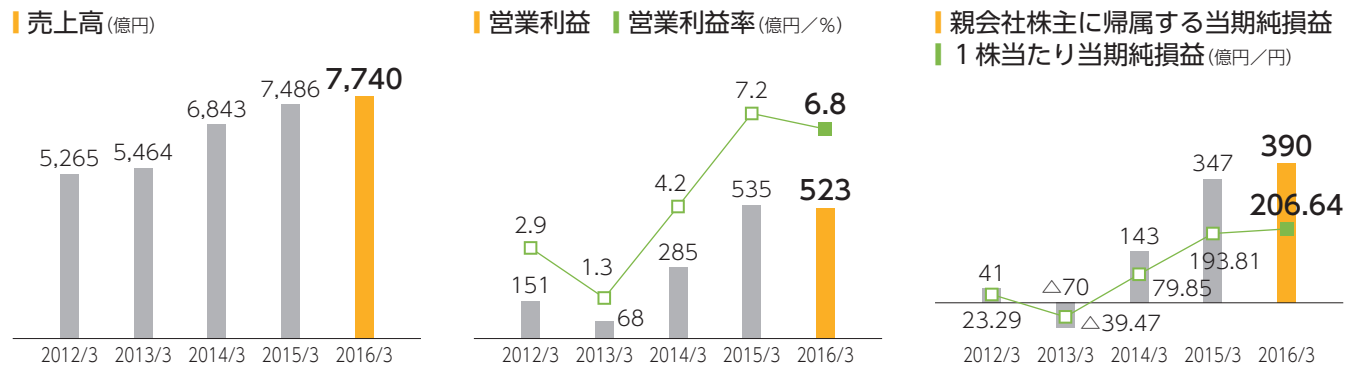
また、今後の成長市場であるEHIIは、HMI、センシング、コネクティビティの三つの技術領域を融合した新製品開発に拍車をかけ、拡販活動を強化します。

最後に、当期の期末配当は1株当たり15円、2016年度の中間配当は5円増配して15円とさせて頂く予定で、今後も株主の皆様のご期待に応えるよう、一層の努力を重ねていく所存です。

皆様には、今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく申し上げます。

EHII: Energy, Healthcare, Industry, IoT (エネルギー、ヘルスケア、インダストリー、IoT)  
IoT: Internet of Things (インターネット・オブ・シングス)  
HMI: Human Machine Interface (ヒューマン・マシン・インタフェース)

〔連結業績の概況〕… 売上高・親会社株主に帰属する当期純利益 過去最高を記録



次期の見通し

2017年3月期 業績予想	
売上高	7,570億円 (前期比 △2.2%)
営業利益	465億円 (前期比 △11.1%)
経常利益	460億円 (前期比 △8.1%)
親会社株主に帰属する当期純利益	320億円 (前期比 △18.0%)

※想定為替レート: 米ドル/円 110・ユーロ/円 125

## 「持続的成長が可能な会社」への発展を目指し 車載、モバイル、EHIIの三つの市場に注力

当社は、2016年4月から3年間の「第8次中期経営計画」を策定しました。

「持続的成長が可能な会社」への発展を目指し、車載、モバイル、今後の成長市場としてEHIIの三つを重点市場と位置付けました。車載市場向け事業では一層の収益改善に取り組むとともに、モバイル市場向けでは継続した新製品の創出と増客を図ることで、両市場での「収益の両輪化」を実現し、更なる拡大を目指します。またEHIIは、HMI、センシング、コネクティビティの三つの技術領域を融合した新製品開発にスピード感を持って取り組むことで、早期に事業の柱として確立させます。

### 事業目標

**GT510 (Sales ¥500Bil. Operating Income 10%)**

売上5,000億円、営業利益10%を目指す

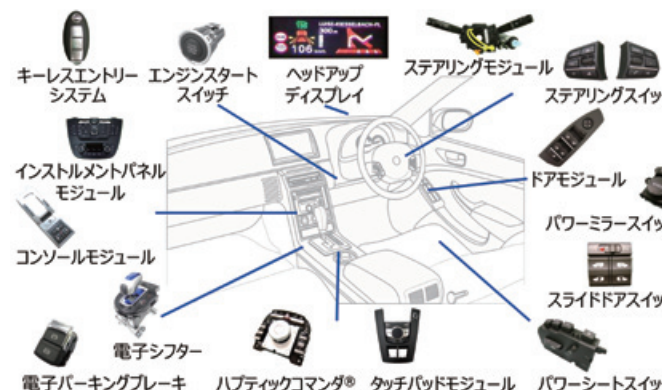
### 重点項目

目標	施策
1 車載市場向け売上3,000億円の達成	1. モジュールの収益増加 2. デバイス製品ラインナップの拡大
2 モバイル市場向け売上2,000億円の達成	1. 1st サプライヤーの維持・拡大 2. 新モバイル機器へのビジネス開拓 (PC・ウェアラブル・バーチャルリアリティ・ドローン等)
3 EHII向け売上600億円の仕込み	1. 第9次中期経営計画に向けた仕込み 2. 高付加価値製品の拡販 3. 他社との協業によるオープンイノベーションの拡大

為替前提：米ドル/円 110・ユーロ/円 125

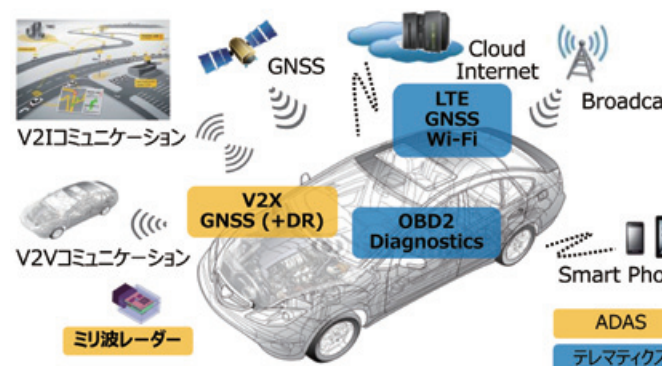
## 1 車載市場向け売上3,000億円の達成

### 車載モジュール HMI・センシング・コネクティビティを融合した製品開発



徹底した操作フィーリングにこだわり、複合化・多機能化のニーズに対応するインプットデバイスのHMI、独自の材料とプロセス技術やソフトウェアを駆使したセンシング、精密加工技術に加え高周波技術とソフトウェアを生かしたコネクティビティ。これらを融合した新製品開発に拍車をかけ、あわせて品質確保と生産性の改善を図り収益力を強化していきます。

### 車載デバイス コネクテッドカーに向けた製品開発



ADAS: Advanced Driver Assistance System  
GNSS: Global Network Satellite System  
V2X: Vehicle to Infrastructure/Vehicle to Vehicle/Vehicle to Pedestrian

通信モジュールは現在、車室内におけるインフォテインメント領域で、Bluetooth®モジュールが業界シェアNumber 1を誇っています。

今後のITS(高度道路交通システム)社会の広がりを視野に、車外とのコネクティビティにも注力し、ADASやDSSSなどの先進・安全運転支援システムに対応すべく、V2XモジュールやGNSSモジュールなど、自動車とさまざまなモノを通信でつなぐ製品の拡大を図ります。

## 2 モバイル市場向け売上2,000億円の達成

### スマートフォンからモバイルに領域拡大・1stサプライヤーの維持・拡大

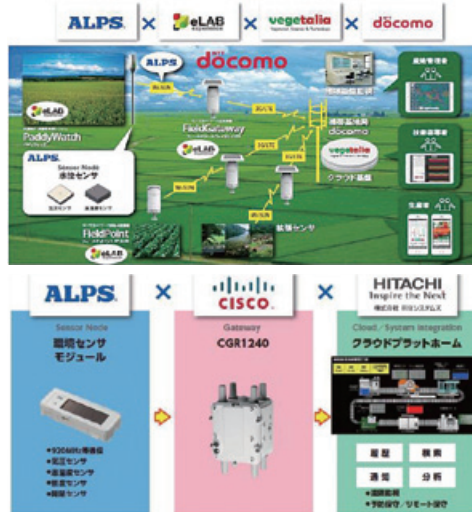


従来のスマートフォン向け製品で確立した1stサプライヤーのポジションを維持し、スマートフォン向け市場からモバイル市場向けへと更なる領域の拡大を目指します。

ウェアラブル、バーチャルリアリティ、そしてドローンなどの各種機器に各種インプットデバイス、触覚フィードバックのハプティック®デバイスやフォースリアクタ™、更に高性能センサ群を拡販していきます。

## 3 EHII向け売上600億円の仕込み

### IoTビジネス オープンイノベーションの拡大



今後の成長が期待されるEHII市場に向け、「CEATEC JAPAN 2015」で出展した新製品の事業化を目指します。CEATECにおいて、「センサネットワークモジュール」がグリーン・イノベーション部門の準グランプリを獲得。これは、住環境のモニタリングや健康管理、インフラ整備の監視等、幅広い用途への応用が期待できる製品です。

この他、日本アイ・ビー・エム株式会社様とIoT事業で提携するなど、HMI、センサ、そして通信によって、さまざまなものをつなげていくコネクティビティに融合し、環境・エネルギーやヘルスケア分野を次の事業の柱に育てていきます。

## アルプス電気の 広告紹介

vol.1

HMI編



2016年1月4日 日本経済新聞掲載

## 世の中を動かす細胞。アルプス

当社は、およそ8年振りとなる企業広告を、日本経済新聞紙上にシリーズ掲載しました。当社がつくっている電子部品はとて小さい製品ですが、さまざまな「もの」を動かすためには欠かせないパーツであり、いわば人や私たちの暮らしを構成している「細胞」のようなものです。「世の中を動かす細胞。アルプス」の言葉をキャッチコピーに据え、当社のものづくりにかける思いを4回に分けてご紹介しています。

### HMI編

人が触れるところだから。インタフェースにも愛情が必要なんです。

私たちの名前を知らなくても、あなたはきっと、毎日私たちに触れているはず。例えば、スマホ、パソコン、車のナビやオーディオなどの、人が操作する部分——ヒューマン・マシン・インタフェースは、私たちの得意分野のひとつ。そこにはナノレベルの高度な技術と、使う人への思いがふんだんに込められています。もっと小さく軽く。もっと分かりやすく。触れた感触はどうか。ストレスなく快適に使えるか。サイズも性能も感覚的な部分も、一切妥協しないモノづくりが私たちの誇り。生き生きとした細胞が、生き生きとした命をつくるように。小さく柔軟な電子部品で、暮らしに、未来に、新たな息吹を吹き込む。私たちはアルプス電気です。

1月 January 2016年

世界最大の家電見本市「Consumer Electronics Show 2016」(米国ラスベガス開催)にアルパイン(株)と共同出展

2月 February

ヘルスケア、スポーツ、介護サービスなど向け「超小型セキュリティビーコン」をリアライズ・モバイル・コミュニケーションズ株式会社様と共同開発

3月 March

「大田・ものづくり科学スクール」の継続開催表彰

業界最高レベルの低消費電流と高精度の検知を両立した「デジタル気圧センサ」を発表

2019年満期ユーロ円建取得条項付転換社債型新株予約権付社債の株式への100%転換完了

アルプス電気(株)、アルパイン(株)、(株)アルプス物流3社合同入社式を挙行

4月 April

「MEDTEC Japan 2016」「TECHNO-FRONTIER 2016」に出展

2015年度通期決算を発表

「大田・ものづくり科学スクール」の継続開催表彰

当社は、東京都大田区より「大田区 区政功労事業所」として表彰されました。

これは、同区と共催している「大田・ものづくり科学スクール」を10年以上継続開催し、小・中学生の健全な育成に寄与したことによるものです。

当スクールは、次世代を担う子供たちにもものづくりの楽しさを知ってもらいたいという願いから、2003年11月にスタートし、2016年3月現在で、開催123回、受講者は1,800人を超えました。

参加した小・中学生は組み立て説明書を読み、試行錯誤しながら、インスタントラジオなど電子製品の組み立てに取り組みます。

ものづくりのノウハウの伝授などは、講師として参加している当社OB・現役社員が行っています。



当社社員の指導のもと、真剣な表情で取り組む子供たち

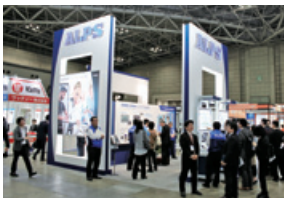
「MEDTEC Japan 2016」「TECHNO-FRONTIER 2016」に出展

当社は、新たなビジネスの拡大を目指し、4月20日～22日に開催された2つの展示会に出展しました。

「MEDTEC Japan 2016」(東京ビッグサイト)は、医療機器の設計、製造に関するアジア最大の展示会で、当社は医療・ヘルスケア市場向けとして、センサネットワークモジュールや新技術を提案しました。

「TECHNO-FRONTIER 2016」(幕張メッセ)は、メカトロニクス、エレクトロニクス領域の最新製品と技術を集めたアジア最大級の展示会で、電源市場でのビジネス拡大を図るため、電力変換モジュールやデバイスなどを出展し、省電力・高効率に貢献する製品を紹介しました。

なお、両展示会ともにマスコミ各社による撮影、取材も連日活発に行われました。

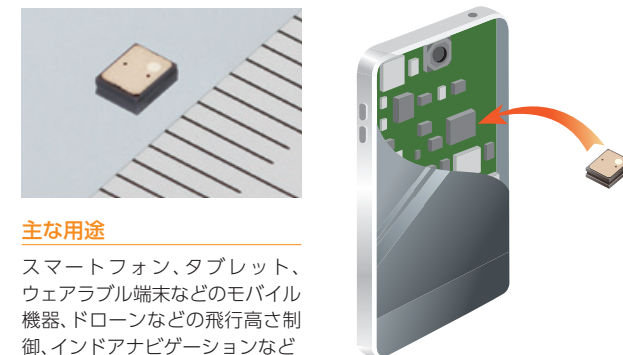


「MEDTEC Japan 2016」で来場者の注目を浴びる当社ブース

注目の新製品

業界最高レベルの低消費電流と高精度の検知を両立

デジタル気圧センサ



主な用途

スマートフォン、タブレット、ウェアラブル端末などのモバイル機器、ドローンなどの飛行高さ制御、インドアナビゲーションなど

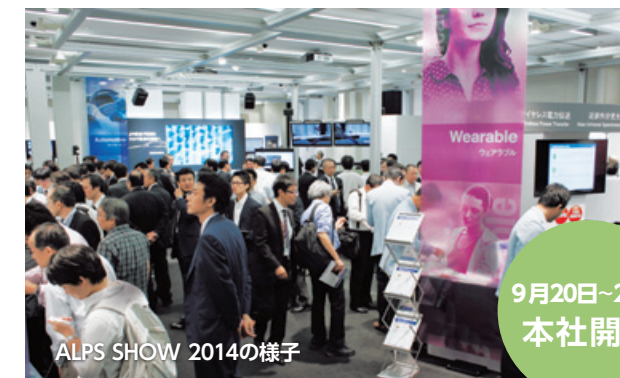
スマートフォンなどのモバイル機器は、ナビゲーションや健康管理、スポーツデータの記録など、利用範囲が一層広がっています。

階段や坂道などの高低を検出する気圧センサをはじめ、速度と方向の変化を検出する加速度センサや、明るさを検出する照度センサなど、スマートフォンには多数のセンサが使われており、これらに伴い、センサには低消費電流化・小型化が求められます。

そこで、当社は独自の設計・製造技術を駆使し、低消費電流の業界最高レベル\*を実現した気圧センサを開発。センサの内部構造を見直し、外形サイズは当社従来品の実装面積20%減の小型化に成功。狭少スペースにも搭載が可能です。

\* (1.8μA:低消費電力時) 2016年2月当社調べ

ALPS SHOW 2016  
ご招待のご案内



9月20日～22日  
本社開催

当社は、お客様や業界関係者の方々をご招待し、新製品・新技術をご紹介するALPS SHOWを隔年で開催しています。

「ALPS SHOW 2016」は9月20日～22日に、本社(東京都大田区雪谷大塚町)で開催いたします。

今回は「人と地球に優しい、快適な未来を。」をテーマに、「美しい電子部品を究める」当社の企業活動をご紹介したいと考えております。

つきましては、株主の皆様のご見学日を、9月22日(祝・木)に設定させて頂きました。

ご希望の株主様は、6月23日(木)にお手元にお送りする「配当関連書類等」に同封のハガキにて、ご応募ください。抽選により、200名の株主様をご招待させて頂きます。

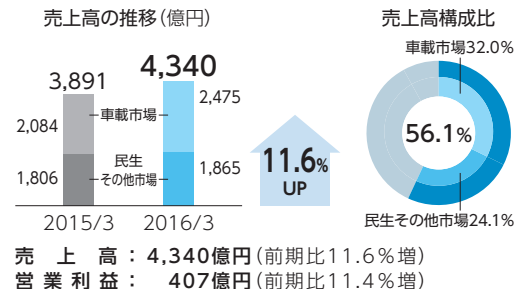
皆様のご応募を、心よりお待ちしております。

電子部品事業



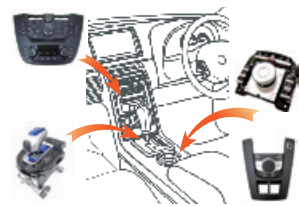
売上、営業利益ともに過去最高を記録

自動車向け入力用モジュール及び通信モジュールの売上が順調に推移しました。スマートフォン向けではコンポーネント製品が大きく伸長し、計画を上回りました。また、期待されるIoT市場に向けた提案活動をはじめ、ネットワーク関連企業との協業等を積極的に展開し、今期の業績は売上高、営業利益ともに過去最高を記録しました。



車載市場 自動車の電子化への積極展開

ADAS (先進運転支援システム) やエコカーなどの開発の活発化に伴い、自動車販売台数の伸び以上に電子化率が高まる中、電子シフターや各種操作入力用モジュール、車載用通信モジュールなど、全般にわたり順調に推移しました。



民生その他市場 スマートフォン向けカメラ用アクチュエータは高水準を維持

スマートフォン市場で高機能化を進める中国メーカー向けに、低消費電力、高速オートフォーカスを実現したカメラ用アクチュエータを拡販しました。一部主要メーカー向けは、市況の変化によって下期に見通しを下回ったものの、通期では高い水準を保ちました。新市場では、IoT市場での提案活動や協業をスピーディーに推進するなど、将来を見据えた事業活動も積極的に展開しました。

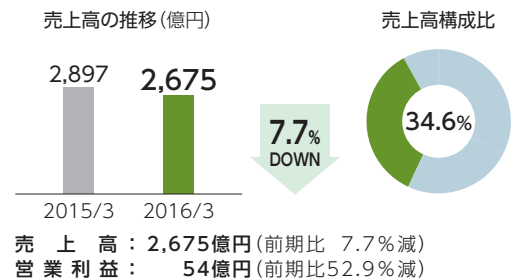


車載情報機器事業



新製品開発を加速させるも中国景気の影響を受け苦戦

アルパイン(株) (東証一部) では、新製品開発を加速させましたが、自動車メーカー向け純正製品は、モデル切替えの影響などから売上及び営業利益が減少しました。市販向けでは、音響製品で大画面製品を投入して売上拡大を図りましたが、中国での景気減速の影響を受け、厳しい状況で推移しました。

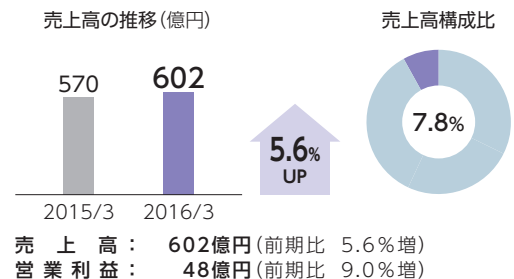


物流事業

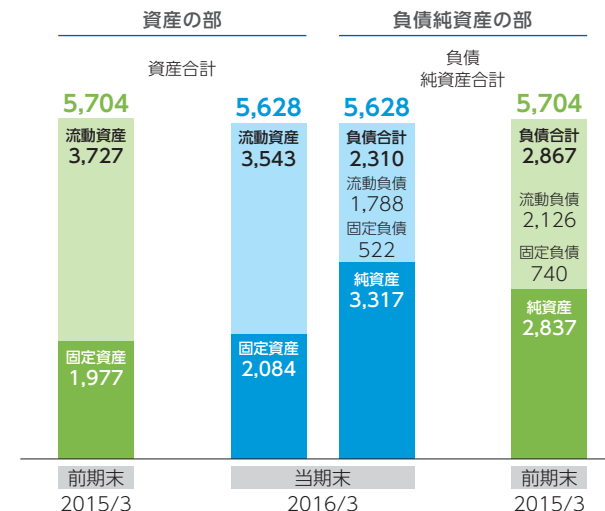


国内・海外が一体となった提案が奏功

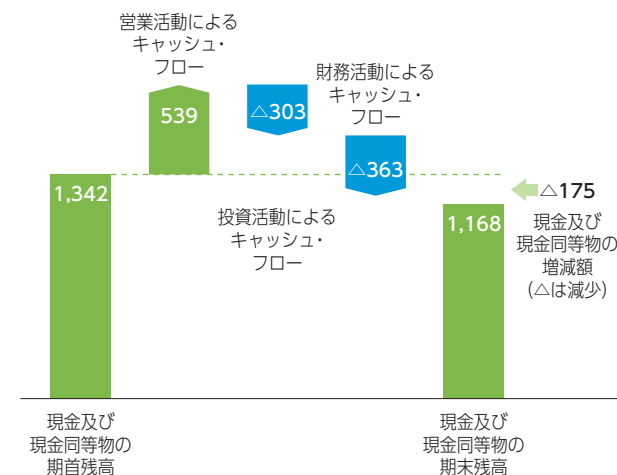
(株)アルプス物流(東証二部)では、取扱物量の拡大に向けたグローバルネットワークの拡充や、国内・海外が一体となった提案営業の推進に加え、運送・保管・輸出入各事業それぞれの生産性向上に取り組みました。



連結貸借対照表の概要 (億円)



連結キャッシュ・フローの概要 (億円)



設備投資・減価償却費・研究開発費の推移 (億円)

※内訳には連結消去を含んでおりません。

